

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス こどもオーケストラ		
○保護者評価実施期間	2025年11月1日 ～ 2025年12月1日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34 (回答者数)	27
○従業者評価実施期間	2025年11月1日 ～ 2025年12月1日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10 (回答者数)	10
○事業者向け自己評価表作成日	2025年12月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童と家族の意向を踏まえるとともに、家族への療育開示の中で、児童、家族への支援を提供している。	児童の状態や体調、生活背景については都度把握に努め、支援プログラムに反映させるよう努めている。加えて、家族からの相談に対応する体制を取っており、家族丸ごとのサポートの実施に努めている。	具体的な手段や捉え方、経過については毎支援ですぐにお伝え出来ない部分も多く、経過を追いながらの説明となっている。また、状況によっては家族へ還元する情報が過多になってしまう状況もあるため、この点は留意していく必要がある。
2	児童を取り巻く環境の中で、必要な関係機関との連携を密にし、包括的な支援が受けられるよう関係機関連携を実施している。	相談支援事業所や学校をはじめ、必要な児童に対しては保護者の了解のもとで各種関係機関との間で情報共有や連携に努めている。	可能な限り関係機関との日々のコミュニケーションや、定期的な連携に努めているが、支援状況によって必ず提供が出来る状況であるとは言い切れない。必要な情報共有をどの児童に対しても適宜実施していけるよう、職員体制の充実など工夫をしていきたい。
3	多職種連携による支援の下、様々な専門性から児童ごとに必要な取り組みや支援、状況把握を行っている。	現在、保育士、介護福祉士、理学療法士、公認心理師、児童指導員等の職員を配置し、各種の専門性の中で必要なアセスメントや活動、支援の提供を実施している。	各種専門性の中でも、児童における支援の資質向上については、研修や勉強会、意見交換を通して努めていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援体制、職員体制上、送迎の実施が難しく未実施である。	各児童に対する支援時間が約1時間で、個別支援という特性上、時間帯も別々としている。そのため、送迎を実施する場合、毎時間送迎のみに従事する職員が必要となり、現実的に提供が不可能。	個別支援および療育開示を軸としており、保護者が同席する前提で、支援の枠組みを組み立てている。したがって送迎用車両の導入もしていない。該当する児童にとっては自立通所支援などの提供などが現時点での限界である。
2	児童館や放課後児童クラブ、地域に開かれた事業所運営ができていない。	支援の特性上、時間が限られていることや、個々のニーズに応じた支援を提供している。長時間にわたる外出プログラム等の実施は不可能であり、余暇的に地域の児童と交流する場の設定はできていない。	現時点でできる範疇として、インクルージョンの場として地域主催のイベントに参加し、利用者へもお声がけさせていただいている。引き続き事業所として出来る範疇として、情報発信に努める。
3	家族会の実施が不定期である。	開催可能な人員が確保でき、かつ参加者が見込める状況として、どうしても運営時間外の休日の実施となる。運営規定上も事業所運営日ではないため、実質的に職員の有志で開催している。	利用者からのニーズ、職員のワークライフバランスを十分に確保できる状況下で、定期的な開催に努めたい。